近代絵画の歴史　～より新しい技法を求め、最先端の画家になる～

18世紀後半

「ソクラテスの死」
ダヴィッド(1787)

「メデュース号の筏（いかだ）」
ジェリコー（1819）

「水浴する女たち」
クールベ(185?)

「草上の昼食」
マネ（1863）

新古典主義

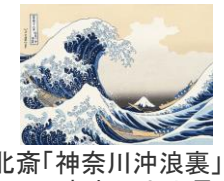
ロマン主義

「落穂拾い」
コロー(1857)

バルビゾン派

写実主義

イギリス風景画



葛飾北斎「神奈川沖浪裏」
（富嶽三十六景）

19世紀

印　象　派（19C 後半 ～ 20C 初頭）

日本の浮世絵

「印象、日の出　モネ(1872)

舞台の踊り子　ﾄﾞｶﾞ(1878)

新印象派

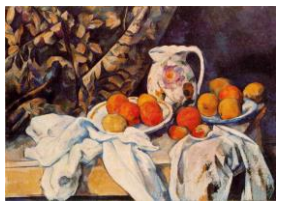
グランド・ジャット島の日曜日の午後
スーラ　1884-86

点描画

・スーラ
・ポールシニャック

後期（ポスト）印象派

「静物：カーテン、花瓶」
セザンヌ(1899)



「耳に包帯をした自画像」
ゴッホ

光輪のある自画像
ゴーギャン　1889

20世紀
かつてないほど、激しい芸術運動が起こり、芸術表現は飛躍的に発展・展開する。

ダダイズム

「泉」　(1917)
ﾏﾙｾﾙ・ﾃﾞｭｼｬﾝ

未来派

「網に繋がれた犬」
バッラ(1912)

シュルレアリスム
超現実主義（過剰なまでに現実）

「大家族」
マグリット

マグリット

立体派（キュビスム）

「アヴィニョンの娘たち」
ﾋﾟｶｿ(1907)

「ヴァイオリンとパレット」
ブラック(1909)

抽象派

野獣派（フォービスム）

「赤い部屋」
ﾏﾃｨｽ(1908)

「The Turning Road」
ドラン(1906)

「The River Seine at Chatou」
ヴラマンク(1900頃？)

エコール・ド・パリ

ラ・フェール風景
ユトリロ

シャガール

モディリアーニ

21世紀

現代の絵画